

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博士 (教育学)	氏名 Author	黒川 智恵美
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目 Title of Dissertation 頭脳流出・流入と母国への貢献意識に関する研究ーエジプトと日本におけるスーダン人高度人材の「スーダニーズネス」に着目してー			
論文審査担当者 Dissertation Committee Members			
主 査 Committee Chair	准教授 日下部 達哉	印 Seal	
審査委員 Committee Member	教授 石田 洋子		
審査委員 Committee Member	教授 吉田 和浩		
審査委員 Committee Member	講師 中空 萌		
審査委員 Committee Member	教授 丸山 英樹 (上智大学総合グローバル学部)		
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>論文内容は、スーダンからの高学歴移住者の頭脳流出と彼らの「帰国して母国スーダンに貢献したい」という意識「スーダニーズネス」に着目し、エジプトと日本に移住およびエジプトと日本から帰国したスーダン人たちへのインタビューとフィールド調査を基に、スーダン人高度人材の母国貢献意識の原動力に関する考察を深めている。</p> <p>まず序章で、研究の背景、問題の所在、研究目的を紹介した。1、2、3章では、先行研究の整理、スーダンの国情と教育制度の解説、方法論の提示をしている。4章では、高度人材のライフコースを調査し、「意識的往還型」というタイプを見出している。5章では母国貢献意識の原動力について、貢献の希望、計画、実行に分類したうえで分析した。6章では、「スーダニーズネス」に揺れがあることを解説したうえで、終章において、スーダンへの貢献に関する原動力は、個人とスーダンの関係性を基本に、イスラーム社会的価値観 やスーダンの価値観の中で形成され、それらは必ずしも移住前や移住後といった短期間で形成されるものではなく、生まれてからインタビュー時点におけるまでの長いライフコースの中で涵養されていくものであるというまとめが行われた。</p> <p>本研究は以下の諸点が独創性として評価された。(1) これまで母国への貢献と帰還に正の関係性があると指摘してきた先行研究に対し、「スーダニーズネス」、つまり帰国と母国貢献意識は国内情勢や個人とスーダンとの関係性の間に揺れ動くものであることを示唆した。(2) また、スーダンの開発において、移住者たちを流出ととらえるばかりではなく、母国に貢献する人々として視野に入れることの重要性、という2点である。</p> <p>なお、申請者はこれまで、査読つき論文4編、査読無し論文1編、国際会議発表1編、国内学会発表4編を公表した。以上、審査の結果、本審査委員会委員は、本論文が著者に博士(教育学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			